



日本科学者会議 (JSA) 滋賀支部  
**NEWS LETTER**

2019年11月8日発行 第49号  
事務局長 水原 渉  
TEL/FAX 0749-47-5169 (共通)  
go-ma-me@hi3.enjoy.ne.jp

**【報告】「戦争の墓碑に向き合い、その声を伝える-3」**  
**旧陸軍墓地を歩く**

大津市 井上敏一

**はじめに**

日露戦争以降、戦死者の数が膨大となった。したがって、墓碑も多い。小都市といえども、そのすべてを調査することは困難である。日露戦争でとめたのは、そういう理由である。

戦死者の墓碑は、集落の墓地（民間墓地）にあるだけではない。旧陸軍墓地にも存在する。

そこが私の第二のフィールドである。

**1 陸軍墓地について**

陸軍墓地は、もともと駐屯地に付属した施設である。訓練中に死亡した将兵を葬るのが目的であった。現存しているものは80あまり。戦前は軍の許可なしには入れない。戦後は軍（国）によって放置された。米軍のABC研究所の用地を確保するために破壊されたり、公園にされたり。全体として、保存状態はよくない。しかし、軍と国民との関係を考えるうえで貴重な遺産となっている。



「故陸軍歩兵伍長山本 鶴吉之碑」(高島市)

最大規模は、旧真田山陸軍墓地。6000を超える個人墓碑がある。旧大津陸軍墓地は600あまりである。

**2 旧大津陸軍墓地の基本的性格**

私が悉皆調査をしているのは、旧大津陸軍墓地である。明治8年に大津市に第四師団第九聯隊が設置された。その付属埋葬地である。第九聯隊にかかわる最古の墓碑は設置直後の明治8年から造られている。たちまち死者が出たのである。その後、15年戦争までの間に、300ほどの訓練死者の墓碑がならぶ。

**3 対外戦争と陸軍墓地の性格の変化**

陸軍墓地の基本的な性格は、この様なものだが、やがて戦死者も葬る場所となる。

明治10年の西南戦争では、第一聯隊につぐ戦死者・戦病死者を生んだが、個人墓碑は置かれてない。これはすでに述べた。

日清戦争では、第九聯隊は遼東半島に出征している。しかし、上陸前に、下関条約が締結されたために、実際的な戦闘には参加せず、軍事占領の役目を負った。旧大津陸軍墓地には、日清戦争にかかわって、下士官では14名、兵卒では210名の墓碑がある。軍隊の記録と死亡年月日を照らし合わせれば、ほとんどが病死者であることがわかる。なかには、出征の途中、船のなかで死亡した下士官もある。赤痢や腸チフス、コレラの流行は密集した集団生活を送る軍隊では致命的なことであった。

日露戦争では個人碑が置かれていない。個人碑をつくれぬほどの死者数だったからだ。ただし、将校は別である。旧大津陸軍墓地には、将校の遺族が個人墓碑を設置できる場所がつくられている。

**4 集団碑から見えるもの**

日露戦争でつくられたのは、集団碑である。しかも、一つではない。将校、下士官、兵卒などの階級に峻別され、大きさも差別された4つの集団碑がおかれている。命の重さは階級によって違うということだ。

**5 俘虜の墓碑**

旧大津陸軍墓地には、敵国の俘虜の墓碑がある。靖国神社などと異なり、戦意高揚をねらった施設ではないからだ。日清戦争のときの清国の兵卒の墓碑が2柱。日露戦争のときのロシア兵の墓碑が1柱ある。

**6 壮兵の墓碑**

さらに、徴兵令以前の「壮兵」（第18番大隊）の墓碑もある。大隊が置かれた彦根市から移葬されたものである。

**最後に**

個人墓碑はもちろん、碑に刻まれた死者にも、生きた生活があったはずである。国家によって非業の死を遂げる無念さはどれほどのものだろうか。2007年に個

人墓碑と向かい合ったとき、血肉があった人たちの死の痛まじさが胸に迫った。それゆえに、墓碑を見て回ろうと想ったのであり、そこに私のこだわりがある。これまで三つの投稿は、その作業の輪郭をなぞったものである。(完)

興味のある方は、以下のブログをご参照ください。

B I N★の「この記なんの記」

<http://nostalghia.asablo.jp/>



### 【報告】川崎陽子氏講演会 (10月6日、岐阜市)

先日、滋賀支部会員で独在住の川崎氏講演会「環境先進国ドイツ—何が日本と違うのか—政治・行政・報道・教育」が開催された。本支部から畑会員と水原が参加したので、講演の概要を紹介する。(※は水原注)

■環境行政政策：独の環境政策の本格的開始はブランド政権時 (1969~74)。環境プログラム (1971) の中で原因者責任を広範な対策と並んで明確化。90年代には例えば自治体の環境行政促進のために、「環境首都」コンテストが進められ (1990~99)、今では一般都市の水準も同レベルまで向上。欧州全体でも自治体の環境政策が、以降の20年間で大きく前進。例えば、ベルギーの町ではバスは一回乗車3€だが1日乗り放題のチケットは7€など、公共交通利用の促進対策は欧州のどこにでもある。日本は中央集権で官僚の力が強く縦割行政、官僚の頻繁な人事異動もあり、無責任体制の官僚主導政治が罷り通っている。上記の独環境プログラム策定と同時期に日本でも環境庁が発足。しかし、例えば容器包装リサイクル法では独と異なり縦割行政 (※5省共管)。独では1990年代の初めから政治家がダイオキシンの耐容一日摂取量は1pg-TEQ/kg-体重 (※以下、単位略) と決めた。日本の官僚政治では当初10pg、現在は4pg。日本では官僚が天下り先の業界を護る。福島原発事故の際のSPEEDI問題では、文科省と経産省で責任をなすり合った。独では連邦放射線防護庁に一元化。

■メディア：欧州ではメディアは政治を監視する第4の権力だが、日本では広告主の方が大事。原発安全神話も電力会社が広告主だということが大きく作用していただろう。また報道機関が政権におもねるのに

は官僚の天下りも大きな役割を果たした。例えば、田中角栄氏の郵政大臣時の事務次官、課長は後にNHK会長、フジテレビ会長となった。

■政治意識と教育：日本人は政治の話をしない。大学の食堂でカップルが政治論議をしているのに驚いた。家庭内でも友人とも政治論議は良く行われている。チェルノブイリ原発事故翌年に独で出版の「見えない雲」という小説がある。これは架空の原発の放射性物質漏洩事故と被曝者の体験を描く原発事故小説で、独の最高児童文学賞受賞。独やベルギーの多くの学校で国語教材として使用。緑の党のエネルギー担当の国会議員は「自分も子供も学校で学んだ」と語っていた。歴史の授業は政治史で、子供の時から政治意識を高める教育を行っている。(水原渉)

### 【第4回幹事会報告】

2019.10.26開催 / 1.情勢討議 / 2. JSA全国・近畿地区 / 3. 滋賀支部の活動：会員・会費納入動向確認；2名入会承認；支部ニュース49、50号の予定報告と様式改善検討 / 4. 各分会活動計画：・県大：「緊急学習会『大学入試改革、何が問題なのか』」実施 (10.23；分会主催；12名参加、会員外6名)、「夜間中学に関する講演会」企画は進行中、・滋賀大：通例活動以外は特になし、・個人会員分会：現地研修 (10.27) の確認、アンケート内容確認、総会開催時 (11.23) の講演会の検討、『日本の科学者』を読む会 (来年2月で検討)、「なんでも勉強カフェ」(来春) / 5. 他団体での活動：「安定ヨウ素剤を配ってよ！しが連絡会」の協力団体参加承認、「2019年度滋賀教育のつどい」の協力団体参加承認と報告 / 6. 会員拡大 / 7. 2署名活動：核兵器廃絶国際署名は全国集約署名数1051万7872で首長署名1173 (市町村20都道府県) (2019.09.20)、「安倍9条改悪 NO! 憲法を生かす全国統一署名」の会員の活動紹介 / 8. その他：滋賀支部のホームページにある滋賀支部規約の入れ替えなど。■次回幹事会：12.15 (日)、9:15~正午、「コミュニティセンター やす」会議室

嬉しいお知らせです。この10月に2名の現役大学教員の入会がありました。県大分会と個人会員分会にそれぞれ1名です。